

キャラメルのような甘い香りの落ち葉“カツラ”など・・・
80種の落ち葉の特徴・名前・由来を紹介 『落ち葉の呼び名事典』

<要約>

株式会社世界文化社は、『落ち葉の呼び名事典』(著者: 亀田龍吉)を9月19日に発売します。

【累計13万部のヒットシリーズ！ 最新作は落ち葉がテーマ】

この度、ロングヒットとなっている『雑草の呼び名事典』をはじめとする「呼び名シリーズ」の第7弾が発売になりました。
累計13万部を突破した人気シリーズの最新刊は、秋の行楽にぴったりの『落ち葉の呼び名事典』です。

本書は落ち葉の名前の由来を楽しく丁寧に解説したお出かけに便利なハンディサイズの図鑑です。

シリーズ最大の特徴である

白の背景での切り抜き写真を使用した構成は、余計なものが写っていないので美しさや特徴がひと目でわかり、存分に観察することができると好評です。

【美しく、やさしい雰囲気の魅力の落ち葉の写真が満載】

秋らしさをぐっと演出してくれる落ち葉は、優しい雰囲気でも色も形も可愛らしいので

インテリアやテーブルコーディネートに取り入れたり、しおりやメッセージカード、キャンドルホルダーなどのクラフトテーマとしても女性に人気。

そんな落ち葉の優しい雰囲気を引き出すために、本書はすべての写真が自然写真家の著者による

野山での自然光の撮影によるものとなっています。

自然光ならではの写真で80種400点の落ち葉を紹介しているので、眺めているだけで秋を感じ、ほっこりとした気持ちになれる一冊です。

【落ち葉の木の名前の由来を楽しく紹介】

誰が名付けたのか、ハナミズキ、ニシキギ、ユキヤナギ・・・など、
落葉樹には美しい名前があります。

また、誰が名付けたのか、サルトリイバラ、エビヅル、ナナカマド・・・など、
落葉樹にはちょっと面白い名前もあります。

例えば、ブナは「この木の林に風が吹き渡ると
「ブーン」と鳴ることから、“ブンナリの木”と呼ばれ転訛した」

イヌビワは「形がビワの実に似ているが、
ビワのようにおいしくないことによる。イヌは劣るという意味。」など

みなさんはどんな落ち葉を知っていますか？
名前と由来を知ることで親しみはさらにわいてきます。

【身近な自然についての知られざる豆知識が満載】

本書には、まだ知られていない
落ち葉の楽しみを知って欲しいというメッセージも込められています。

例えば、カツラは優しい品の良い雰囲気を持った木ですが
その落ち葉からは、キャラメルのような甘く香ばしい香りがします。

●あとかきより(一部を抜粋)

実際の紅葉や落ち葉を見ると、色が混じったり、モザイク模様や斑点が入ったり、虫喰い跡の穴があいていたり、その色や形の面白さは言葉では言い尽くせません。

一枚の葉がどんな一年を過ごしてきたかにまで思いを馳せる時、その紅葉の色だけでなく、傷跡までもが趣深く思われることでしょう。

葉たちが土にかえる前の素晴らしい輝きに是非目を向けてみてください。

▼ 出版物概要

1. 書籍名：『落ち葉の呼び名事典』
2. 発売日： 2014 年 9 月 19 日
3. 定価： 本体 1,500 円+税
4. 判型： A5判
5. 頁数： 128頁

▼ 『落ち葉の呼び名事典』書籍ページ

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4418144242/sekaibunkacom-22>

▼ 世界文化社の新刊情報はこちらから

<http://www.sekaibunka.com/>

<著者プロフィール>

亀田龍吉(かめだりゅうきち)

自然写真家。1953年千葉県館山市生まれ。植物、昆虫、鳥をはじめ、人間をも含めたすべての自然の関わり合いをテーマに作品をつくり続けている。科学と情操の接点でとらえる独自の映像は、自然写真の世界で高い評価を得ている。主な著書に『葉っぱ博物館』『街路樹の散歩みち』（ともに山と溪谷社）、『花と葉で見わける野草』（小学館）、『野草のロゼットハンドブック』（文一総合出版）、『雑草の呼び名事典』『ここにいるよ』（ともに世界文化社）などがある。

◆会社概要

会社名 株式会社世界文化社
本社 東京都千代田区九段北 4-2-29
代表者 取締役社長 鈴木美奈子
設立 1946年2月
事業内容 書籍・雑誌の出版

Web サイト <http://www.sekaibunka.com>

【本件に関するお問い合わせ先】

企業名：株式会社世界文化社
担当者名：湯原 篠崎
TEL：03-3262-5153
Email:media@sekaibunka.co.jp